

2025年度田園調布幼稚園

園の自己評価

2025年度は職員体制に変化があるため、移行期間を設け前年度中から引き継ぎを行い、様々な交わりを通して職員が一致して歩みだす配慮がなされ、始めることが出来た。

少人数であるが担任以外の保育者を多く配置し、丁寧できめ細かい配慮のもと、田園調布幼稚園教育理念に基づき、子ども・保護者のニーズにこたえながら保育を進めてきた。また、外部講師による園児および遊びの様子を観察と保護者の面談、保育者に向けての研修会を行い、様々なニーズを抱えている子どもたちに即した保育の提供を心がけた。

田園調布幼稚園教育理念

「田園調布幼稚園はイエスキリストの教えを土台とし、一人ひとりをありのまま受け入れ大切にする保育の実践を通して、豊かな人間形成をめざします。また、自分は神様に愛され喜ばれている存在であることを知り、それゆえに喜びと安心感をもって遊びを中心とした幼児期の生活の中で、他者を愛し、共に生きる力をはぐくみます。

そのために園は家庭との連携を大切にし、子ども・保護者・保育者が相互に育ちあうことをめざします。」

教育目標

- ・信じる心、愛する心をもつ子
- ・自分でやろうとする意欲と生きる力をもつ子
- ・明るくのびのびと遊ぶ子

上記の理念・教育目標をもとで、重点目標を掲げて保育実践を重ねた。

- ・満三歳児クラス新設により、未就園児クラスから3歳児クラスへの進級を円滑にし、一人ひとりの発達に合わせ、より柔軟で細やかな対応を行うことで、各自の成長を促していく。
- ・神様の愛の中で、人とかわりながら生きる力をはぐくむ保育の実践。
- ・家庭との連携を図り、祈りの中で子どもの成長を支えるとともに、子育て支援の充実を図る。
- ・小学校をはじめとする関連機関との連携事業の推進…公開保育・幼保小合同研修
- ・丁寧な支援活動…発達面などで配慮を必要とする子どもとその保護者を関係機関へつなぐことや、専門家との面談の機会などを設ける。また、保育者の研修・ケース会議による学びと理解の強化。

<総括>（2025年度の評価および2026年度への展望）

- 今年度は園長の交代をはじめとした体制の変化の中にもありながらも、満3歳児保育の新事業に取り組み地域のニーズに応える働きが開始されたことは特筆すべきことであった。園の計画を超える求めに応えることが出来たのは、教職員の努力と熱い祈りの支えがあったことと感謝する。月齢差が大きく、落ち着いたところに次の子どもが入ってくるというクラス運営の難しさの中で、一人ひとりの状況を丁寧に受け止め、クラス運営に努めた。次年度に向かって利用定員を引き上げ地域のニーズに応えるとともに、満3歳児クラスの充実をめざす。
- 日々の保育の中で起きる出来事や課題について、教職員間で共有し語り合い折り、対応をしていくことで当事者だけが悩むことのないようチームワークを大切に歩んできた。このことは一人ひとりの子どもを複眼的にとらえることができ子ども理解が深まっていった。今後も一人の子どもの様々な時間帯の姿を共有できるような機会を設けていく。
- 働く時間の違う教職員がそれぞれの時間帯の子どもたちの姿や保護者対応における注意点などを共有できるように、今年は預かり保育の先生方との懇談を行ったが、次年度は時期や回数、ミーティングの参加者など工夫して、全教職員での会議やそれぞれの時間帯での研修など工夫をして子どもたちの姿を共有し、一人ひとりに寄り添った保育と支援について考えていきたい。
- 保育内容についてもカリキュラムを立てた後にカリキュラム会議を行い、意見を交換し調整していくことにより、クラス担当制ではあっても一日のうちの大半を他学年と一緒に交流する形で保育を行いながら、一人ひとりの子どもに即した支援を行うことが出来た。
- 区主催の公開保育を当園で実施したところ、子どもの主体性を大切にし、寄り添う保育の実践について多くの好評をいただくことが出来たことは園の理念や方針を今後も大切にしていける確認の時であった。方向性が確認できたことに加え、保育者たちのさらなる保育の質の向上の機会ともなり今後も機会があれば積極的に受け止め、園の保育を省みていきたいと考える。
- 保育環境の整備については気になる個所を中心に改善を進めるも、日常的な部分でなかなか手が回らず後回しになることもあり、時間の使い方を含め改善が必要である。また、職員では難しいことに関しては専門の業者等を利用しての管理なども今後計画していく。

<学校評価委員の意見>

- それぞれの園に個性があると思うが、他園見学を行っていることが記録や語り合いを通して共有され、自園にふさわしい形で取り入れ、保育を向上させていく取り組みを大切にし、よりよい保育観が生まれ、保育が豊かになることを期待する。
- キリスト教・キリスト教保育の良さをさらに伝えていくことを望む。
- 幼稚園・教会学校・教会のつながりが保護者にももっと見えるような工夫が必要ではないか。そのことによりこの園の良さが伝わっていくと思われる。
- この園を選んだのは保育がサービス業ではなく、付加価値がある教育をされているからなので、保護者もおおらかに子どもを見守ることを大切にしていきたいと考えていると思う。

○保育が無償化になっているから、必要があるときは保護者に求めていくこともあっていいのではないか。

○教会学校とのつながりについても、システム等がわかれば一步踏み出す方がいると思う。(お知らせの仕方の工夫)

○宗教が敬遠される中であって、大切にしていることがずっと変わらないがゆえに多くの人々に受け入れられていることであるので、恐れず語ることも大切に思う。

○小さい子どもたちが友のために祈る姿に思いやりが育っていることを強く感じる。それは教え込まれたものでなく、日々の積み重ねから祈りとなっている。

保育者自己評価 (総合)

1 園の教育理念・教育目標・教育方針を理解し実現に努めている	A
牧師(園長)よりキリスト教の人間観・キリスト教保育・本園の理念等についての研修を行い、全職員が祈りをもって保育にあたることを大切に、働きを超えて子どもとその家庭に仕えていく思いを持ち、祈りつつ保育にあたっている。具体的な場面における課題などについては教職員間で共有し、話し合い進めている。	
2 キリスト教保育の実践にあたり、キリスト教理解に努めている	B
主日の礼拝出席を勧め、保育者自身がまず神の愛に支えられ保育にあたることを大切にしている。「キリスト教保育」誌の活用、他園見学を通して職員間で語り合う時間を大切にしている。	
一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育している。	A
子どもも大人も、一人ひとりが招かれている大切な存在であることを覚え、保育の振り返りを大切にしている。他の保育者から見える姿についても共有しながら、ひとりの子どもを多角的にとらえることを大切にしている。ケース会議など園内研修の時間をさらに設け、自由に意見交換をしつつ、次の補遺奥につなげるための共通理解を大切にしていく。	
4 一人ひとりの興味関心を高め、自主的・意欲的に活動できるよう保育している	A
振り返りによって次の保育への準備を行うとともに、他学年との活動のすり合わせを通して子どもが継続して遊びを展開できるように環境設定を行っている。様々なところで遊ぶ子どもたちの姿をクラスの枠を超えて受け止め、共有している。記録の工夫がされたが、それを十分に用いることが今後の課題でもある。	
5 それぞれの育ちにあったプログラムを通して、個に添った援助をしている	B
個々の特性を理解しながら、援助方法や教材研究を行うよう努めている。全体での活動の際、個別の援助が必要にも応えるべく計画しているが、難しいと感じる場面が見られた。発達心理士による研修会を行い、特性のある子どもたちについての学びを継続している。	
6 一人ひとりの体調の変化の把握に努めている	A
コロナ禍以降健康管理には注意を払いつつ保護者への情報共有に努めてきた。保育中における健康状態の変化があった場合には、一度保護者に連絡を取ったうえで様子を見るなどの工夫をしてきた。長時間保育を受ける子どもの増加に伴い、預かり保育の担当者への連絡なども今後とも大切にしていきたい	
7 教育環境設備の点検整備を適切に行っている	C
日々の環境整備はある程度行うことが出来ているが、共有場所の手入れや点検などできないことがある。2階のテラスから物の落下が何度かあり、指導が行き届いていなかった。大型遊具付近での遊び方、三輪車の使い方などを含めた環境設定・整備が課題。大型遊具の点検なども今後行っていく必要がある。	

<p>8 子どもの興味関心、育ちに応じて遊具や教材をそろえている</p> <p>花や野菜の苗を買ってきて栽培するのではなく、種子から始めることによってその生育を観察できるようにしている。また学期ごとに玩具・教材の入れ替えなどを行っているが、もう少し季節に応じたタイミングでも教材の入れ替えを行い、教材研究の時間をとっていく。</p>	B
<p>9 保育者の資質向上にかかる研修・教育環境づくりに努めている</p> <p>他園見学をすることで、新しい気づきと共に自園の良さや工夫を要するところなどが上がり、実践に生かされる努力があった。様々な学びがある中で、十分に生かされていないと感じているところもあり、今後の課題。今年度区の公開保育を担当することを通して、もう一度自由遊びの大切さを確認することが出来るとともに、他園の保育者からの感想等をいただき、園がしている保育の大切さを改めて感じる年であった。今後も公開保育などを積極的に行い、外から見える自園の姿にも注意を払いつつ、保育の質を高めていきたい。</p>	B
<p>10 子どもの様子を保護者に伝え、保護者の話を聞き、相互関係を大切にしている</p> <p>保育参加・絵本貸し出し等の機会を通して全体の雰囲気や子どもたちの今の関心ごとなどを知っていただきつつ、学年のたよりやアプリ配信による保育の様子を伝えることを行っている。その際、個人面談や保護者会、保護者からの感想やアンケートを寄せていただくなど工夫し一方的にならないように心がけてはいるが、就労者の増加により担任が直接会ってお話ができる機会が偏ってしまう方もおり、注意を要する。写真などは肖像権の問題もあり、掲載のための準備に時間がかかってしまうこともあり課題。</p>	B
<p>11 保護者会・講演会・行事等を通して保護者との連携を大切にしている</p> <p>行事の開催日などに配慮し家族参加・父親対象といった行事をもつことを心がけるとともに、懇談会・教育講演会・聖書を学ぶATMの会・保育参加の後に個人面談を行い、保護者が園の保育の考え方を知り、今この時に大切にしたいことなどを共有することを心がけている。</p>	A
<p>12 教職員は向上心をもって園に努めている</p> <p>キリスト教保育連盟・私立幼稚園連合会主催の研修をはじめキャリアアップ研修などに参加し知見をひろげるとともに、保育者間で内容を共有する時間をもち意見交換をし明日の保育に生かすよう努力している。</p>	A